

目指す学校像	「学び」でゆるやかにつながる「みんなの学校」～多様性と包摂性、それを支える寛容性の実現～
--------	--

重点目標	1 児童一人ひとりの学習スタイルに応じた学習活動の推進 2 一人ひとりの多様な幸せ(well-being)を大切に学ぶ「時間」「空間」「仲間」の充実 3 探究的な学びを地域全体で支えるスクール・コミュニティの実現 4 学びを最大限に引き出し、主体的な学びを支援する伴走者としての教職員の育成
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価	
年 度 目 標					年 度 評 価			実施日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	令和6年2月13日
1	<現状> ○昨年度までの研究で「さいたま市小・中一貫教育」を推進し、一小・一中の地の利を生かして、円滑な接続を図るための取組を行ってきた。 <課題> ○「さいたま市小学校教科担任制」を円滑な実施を継続することで、中学校の指導体制のよさを小学校に取り入れるとともに、小・中の学びの連続性を強化できるようにする。 ○児童の学習観を更新し、「学びを自分事に」することで、学力の向上につながる。	「学びの自律化」の推進による学力向上 ICT活用を進んで行う	①日常的に「学び方」「情報活用能力」の習熟を図る授業づくりに取り組む。 ②授業の中で児童が選択する機会を多く設定し、自律的な学習を促進する。 ①自律的な学びのアイテムとして「ICT」を活用し、自律的な学習を行えるようにする。 ②教職員の「ICT」の研修を進んで行う。	・各種学力調査において、「平均正答数別人数割合の全体平均との差」について、上位層のピークと中位層のピークの差を4問以内にすることができたか。 ・タブレット活用について、学校評価のアンケートで児童と保護者の肯定的な意見を昨年度より増加できたか 児童：(R5:73.8%→R6:79%) 保護者 (R5:46.2%→R6:50%)				
2	<現状> ○学校や教室に行きづらい児童のための学習スペース(通称オアシスルーム)の運用が始まっている。 ○昨年度の学校評価アンケートの、いじめ認識について児童の肯定的意見が83.9%であった。 <課題> ○整備した自主学習ルームを活用して、児童の学習不安の解消に資する取組を推進する。 ○オアシスルームの周知を図り、家庭と学校をつなぐ踊り場としての機能を充実する。 ○豊かな関わり合いを通して、多様性を最大限に尊重する雰囲気醸成する。 ○全学年において、積極的ないじめの認知を行い、重大ないじめ事案に発展しないよう、積極的な生徒指導をおこなう。また、組織的に早期発見、早期対応を行うことが重要である。	特別な教育的支援を求める児童に対する組織的なサポートの実現 オアシスルームを活用して学習支援や心のケアを行っている。 引き続き、ボランティア等も含めた支援体制の整備を進め、児童にとって「心が元気になる場所」の確保	①オアシスルームを活用したサポートを実施する。 ②目白大学と連携し、リハ専門職による特別支援学級へのサポート及び教育相談を実施する。 ③特別な教育的支援を求める児童に対するサポートプランを作成する。 ④アシスタントティーチャーや校内ボランティアによる支援体制を整備する。 ⑤スクールロイヤー等の外部講師を招聘した研修を行い、教職員の危機管理意識を高める。	・オアシスルームの運用マニュアルを作成することができたか。 ・目白大学との共同研究「リハ専門職連携プロジェクト」の成果をさいたま市教育委員会事務局学校教育部特別支援教室と保護者に報告することができたか。 ・いじめ認知についての学校評価アンケートの児童、保護者、教職員の肯定的な意見を増加できたか。 児童：(R5:83.9%→R6:86%) 保護者：(R5:46.9%→R6:50%) 教職員：(R5:48%→R6:60%)				
3	<現状> ○西原小・中学校合同のコミュニティ・スクールが円滑にスタートした。 ○開校当初より、郷土学習として取り組んでいる岩槻の人形づくりについて、総合的な学習の時間(STEAMS TIME)に位置付けた。 ○児童と地域の方が気軽に交流できることを目的とした「コミュニティルーム」を設置した。 <課題> ○学校運営協議会において、熟議を深める。 ○整備した学習計画や学習環境に基づき、実践を充実する。	コミュニティルームをプラットフォームとした、児童と地域の方の交流や学び合いの機会の継続的な設定	①コミュニティルーム内の環境整備を進めるとともに、運用ルールを作成する。 ②コミュニティルームの設置について、地域関係者に周知する。 ③コミュニティルームを活用して、地域の方同士との交流や、児童と地域の方同士の交流を実施する。	・郷土愛について学校評価アンケート保護者と児童の肯定的な意見を増加できたか。 児童：(R5:72.4%→R6:78%) 保護者：(R5:21.2%→R6:30%) ・西原中学校と合同で実施している学校運営協議会の実施方法を一部各校開催することで、熟議の時間を充実させ、地域・保護者の願いを実現できたか。				
4	<現状> ○教員免許更新制の発展的な解消に伴い、教職員のキャリアステージやライフスタイルに応じて、研修により一層主体的かつ計画的に取り組むことが求められている。 <課題> ○教職員人事評価制度における実績評価や研修の取組については、各個人で時間を生み出さなければならない。 ○ICTの活用により日々蓄積される教育データと教職員の経験を掛け合わせることで、教育活動の更なる改善を目指す。	教師自身の学びの転換を図り、教師が自ら問いを立て実践を積み重ね、振り返り、次につなげていく探究的な学びを、教師自らがデザインする。	①教師自身が、みずから主体的に目標を設定し、振り返りながら、責任ある行動が取れる力を身に付け、児童の重要なロールモデルとしての役割を果たすことができるようになる。 ③教員一人ひとりが自身の課題意識に応じた個別の研究計画を作成し、互いの研究の成果や課題を学び合う機会を継続的に設定する。	・学習についての学校評価アンケートの児童、保護者、教職員の肯定的な意見を増加できたか。 児童：(R5:39.1%→R6:45%) 保護者：(R5:40.8%→R6:45%) 教職員：(R5:36%→R6:40%) ・教職員の人事評価シート「研修」の取組について、全教職員が8割以上の達成状況となったか。				